

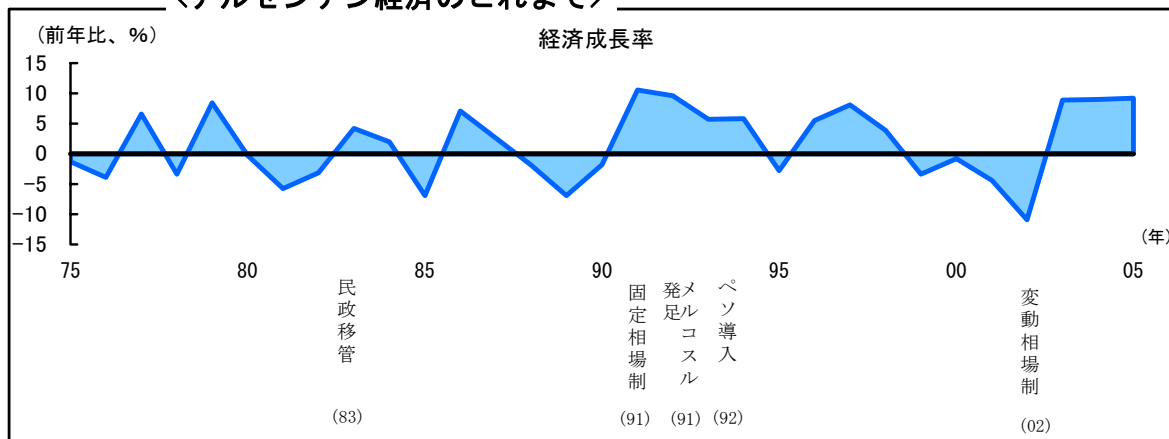
21 アルゼンチン

Argentine Republic

<2005年>

人口	3,810万人 (日本の約1/3)	財政会計年度	1月~12月
一人当たりGNI	3,720ドル	為替制度	変動相場制
産業構造(GDP構成比)	1次産業 8.0% 2次産業 36.0% 3次産業 56.0%	通貨	ペソ 1米ドル=2.9ペソ
		面積	278.2万km ² (日本の約7.5倍)

<アルゼンチン経済のこれまで>



アルゼンチンの主要経済指標

		94~03年	2004年	2005年	2006年			
					政府	ECLAC	IMF	民間機関
実質GDP	前年比%	1.0	9.0	9.2	4.0	6.0	7.3	実質GDP
鉱工業生産	同上	▲1.3	—	—	—	—	—	平均
消費者物価	同上	4.5	4.4	9.6	—	—	12.9	6.6
失業率	%	15.1	13.3	—	—	—	—	最大
経常収支	億米ドル	▲57.1	32.8	—	—	—	—	7.0
(GDP比)	%	(▲1.2)	(2.0)	(1.3)	—	—	(1.2)	最小
財政収支	億米ドル	20.6	59.4	67.7	—	—	—	6.0
(GDP比, 年度)	%	(0.9)	(3.9)	(3.7)	—	—	—	(7社)
政府債務残高	億米ドル	1,231	19,130	—	—	—	—	
(GDP比, 年度末)	%	(61.8)	(124.9)	—	—	—	—	

- (備考) 1. アルゼンチン経済省、IMF“International Financial Statistics”、データストリームより作成。
見通しの政府は経済省、IMFは“World Economic Outlook”(2006年4月)、ECLAC(国連ラテンアメリカ・カリブ委員会)は“Preliminary Overview of the Economies of Latin America and the Caribbean”(2005年)による。
2. 政府債務残高の94~03年は95~03年の平均。
3. 失業率は2003年から推計方法が改定された。

<2005~06年の経済>

2005年の経済成長率は、堅調な内需及び、一次産品の輸出に支えられ9.2%と04年に引き続き堅調に拡大した。また、05年の財政収支は当初見込まれていたよりも歳出が増えたものの、好況を背景とした歳入増加により全体として財政赤字は縮小した。

06年以降は、インフレ圧力の増大から金融政策は引締めの方角に向かうと考えられることから、内需の伸びが安定化すると予想され、成長率は緩やかに低下するものと見込まれている。(政府見通し4.0%、IMF見通し7.3%、民間機関26社の平均6.6%、06年4月時点)。